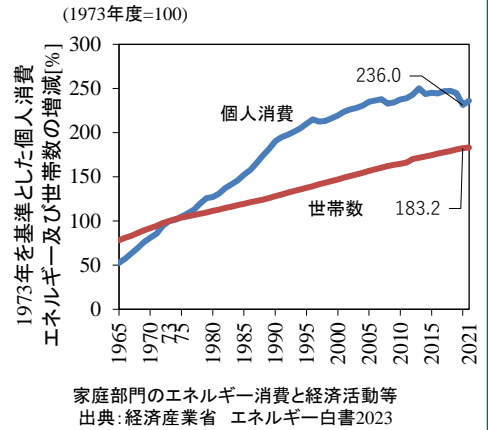


住宅におけるライフスタイルに応じた 省エネ・省力化性能評価方法の構築

■ 研究背景

日本における家庭部門の**エネルギー**消費量は、長年**増加**傾向にあり、2050年カーボンニュートラルの実現に向け、省エネルギー対策を行う必要がある。また、家事や育児等の**無償労働**^{注1)}に費やす時間が**増加**しており²⁾、睡眠や食事等の日常生活に費やす時間が短くなっている³⁾。

無償労働を自動化する家電を使用することで、無償労働時間が削減可能なうえ、家電を効率的に稼働することにより、省エネルギー化に繋がると考える。



1) 経済産業省 資源エネルギー庁, 令和4年度エネルギーに関する年次報告第1章国内エネルギー動向

2) 内閣府経済社会総合研究所, 無償労働の貨幣評価

3) 内閣府男女共同参画局, 生活時間の国際比較

注1) 家庭内の仕事や地域活動など報酬はもらっていないが、私たちの生活に必要な労働のこと。内閣府は無償労働の具体例な活動として家事（炊事、掃除、洗濯、縫物・編物、家庭雑事）、介護・看護、育児、買物を取り上げる²⁾。

■ 研究目的

無償労働時間や無償労働に伴う電力消費量を詳細に把握した研究は少ない。そこで、無償労働や自動化の実態把握を目指す。

■ 研究概要

無償労働の実態把握のためアンケート調査を行い、無償労働の自動化による省エネルギー効果を明らかにするため、実験による調査を行う。

アンケート調査

アンケート作成

アンケート項目や選択肢を検討し、アンケートを作成

アンケート実施

400件以上の回答数を目標に実施

アンケート分析

結果を集計し分析を行う

実態把握

分析結果から、実態を明らかにする

実験



⇔
比較

既に無償労働の自動化がされている家電を使用し、無償労働にかかる時間やエネルギー消費量を計測することで、2種類の家電を比較し、評価をする。



※アンケートにご協力お願いいたします。
(<https://survey.takamura-lab.jp/>)